

## 木曽谷の伝統的伐採法「三紐切り」の実演

当センターで開催されたフォレストマネージャー研修の一環として、木曽の伝統的な伐採方法である「三紐切り」の実演が行われました。「三紐切り」は、木の幹に3方から斧を入れ、3か所のツルを残して伐倒することで、木材を傷めず、倒す方向も決めやすいという古来の技術です。

当日は、三ッ紐切保存会会員で林業士・GMでもある古川正樹さんがリーダーとなって伝統技法が披露されました。三ッ紐切保存会は、この伝統技法の継承を志す青年の皆さんによって平成16年に結成され、翌17年の伊勢神宮御神木伐採の「御杣始祭（みそまはじめさい）」でも活躍されました。



木に斧を立てかけて、倒れるようだとその木は切らなかったともいわれています。



受け口を作る。斧の切れ味にもこだわりがあります。



よこ弦を残し受け口を整える。



予定方向へゆっくり倒れる樹齢約60年のサワラ



伐根をよく観察します。



収穫に感謝と、再生の祈り。株祭りのうち鳥総立て（とぶさたて）の儀式